

ねじのゲージを何回も回して検査するのが大変！



- ★数量や種類の多いワークの判定では、ゲージの取り出し、ゲージを回す、もどすなどの動作の頻度が多くなります。
- ★特に通り側の判定では、ねじの全長を通してみて確認する必要があり大変です。
- ★時間がかかるだけでなく、測定者の大きな負担にもなってしまいます。

測定者の負担を軽減するビット付ねじゲージ

- ★ねじプラグゲージのネック部に、ドリルビットの加工を施しました。市販の電動ドライバーにワンタッチで取り付け可能です。
- ★電動ドライバーを正逆回転させることにより、ゲージを手で回したり、持ち替えたりする工数を削減させました。
- ★電動でスイスイ回すことができ、測定者の負担も大幅に軽減できます。



ドライバーのチャックにワンタッチで取付

使用事例：こんなに時間短縮ができます。

- ★工具感覚で、必要なゲージを素早く取り出しセットできます。作業効率が大幅にアップ、測定時間の短縮に繋がります。

M10P1.5GPⅡ ねじプラグゲージ検査事例

手回し1箇所 10秒 → 電動ドライバー 約5秒

※日立コードレスドライバーFDB3DL2 低速 0.3N・mを使用。
検査時間には個人差があります。
ビットは標準の六角軸二面幅6.35mmと5mmの2種類があります。

